

共通論題「SDGs・ESG と地域金融」 パネルディスカッション

地域金融機関の ESG・SDGs への取り組みと課題

東洋大学 野崎浩成

地域金融機関と ESG との親和性は高い。ステークホルダー資本主義への関心が世界的に高まる以前から、株式会社としての地域銀行が抱えるステークホルダーについては、株主ばかりでなく地域社会などの多様性が認識されてきた。しかし、地域金融機関が ESG・SDGs の文脈で果たす役割は、金融市場が事業者を求める水準の高まりとともに一層重要なものと進展してきている。金融機関自身が SDGs への取組みを深化させその進捗を開示する必要性が高まるばかりでなく、地域における顧客事業者に対するサポートも多面的に行うことが求められる状況となっている。

本報告においては、地域金融機関が求められる幅広い対応を整理した上で、具体的な取り組みについて具体例を紹介する。その上で、各地域金融機関が支えるべきコミュニティの持続可能性を担保すべく、地域経済の安定化と活性化を実現するために解決すべき課題について提起する。なかでも、地域におけるインパクト投資の有効性について述べる。

ESG 投資を含むサステナブル投資は投資手法・目的により多様な分類があり、インパクト投資は全体から見ればごくわずかな割合を占めるに過ぎない。しかし、ウォッシングなどの問題を踏まえ、社会的リターンの定量化と厳密な検証が求められるこの投資手法への注目は高まっている。とくに、地域という視点でインパクト投資を捉えると、地域との共存共栄を目指すリレーションバンキングとの共通点が多いことが理解できる。そこで、地域密着型インパクト投資（PBII = Place-Based Impact Investing）を取り上げながら、地域におけるエコシステムを創生する仕組みをいかに地域金融機関が構築できるか、その可能性を本報告の中核に据える。